

第 28 回 松江城下町遺跡検討会が開催されました

平成 25 年 5 月 28 日、第 3 回目となる松江城下町遺跡検討会が松江歴史館で開催され、西尾克己松江
市史松江城部会長の呼びかけで、松尾信裕先生(大阪城天守博物館館長、松江城専門部会員)を講師に、
松江市スポーツ財団埋蔵文化財課、松江市文化財課調査係、松江城部会、史料編纂室、島根県文化財課の
関係者約 40 名が集まりました。



検討会の趣旨は、「現在調査が進められている
松江城下町遺跡について、関係者が集い検討・学
習することで、遺跡に対する共通認識を深め、今
後の調査・研究水準を向上させ、併せて発掘調査
の有効性と効率性を高めていくことを目的とするも
の」です。

具体的には、1.出土遺物や遺構状況図及び採集試料や解析データ等を資料とし、各遺構の特色や遺構間
の層序の連続と断絶、城下町形成以前の堆積状況や植物相等を検討すること。2.全国的な視点から見た松
江城下町遺跡、他地域の事例、城下町調査の視点についての学習を行うこと。3.今後の調査・研究のあり方
についての検討を行うこと、などです。

当日の検討会では、城下町遺跡の調査事例報告として、「これまでの成果の要点、Y層の提起(川上昭
一)」、「与力屋敷の調査(屋敷境の管理)南田町(小山泰生)」、「松江地方裁判所の調査(大形素掘り土坑と
屋敷のみの嵩上げ)母衣町(落合昭久)」、「素掘り大溝の存続期間 殿町(園山薫)」、「城下町東端の調査
(城下外郭部の土手と敷葉工法)南田町(徳永桃代)」の 5 報告を受けました。

続いて、松尾信裕先生から「近世都市遺跡の発掘調査」と題して講演を(全国的な視点から見た松江城下町
遺跡、他地域の事例、城下町調査の視点・アドバイス)、また、西尾部会長から「富田川河床遺跡における街
並み遺構」、河原荘一郎先生から「松江城下町の造成について」のコメントをいただきました。最後に全体を
通した検討会を行い、時間の短さを感じる充実した検討会となりました。

検討会の最大の成果は、日々の発掘調査に追われる現場担当者の持つ情報・課題の共有化、全国視点に立った問題解決策の議論です。通称大手前線や家老屋敷(現歴史館)での発掘調査を契機に進められた松江城下町遺跡の調査により、幾冊もの調査報告書とおびただしい出土遺物が物語っているように、その情報量は莫大です。全国的に城下町遺跡の調査が一段落したこの時期に始まった松江城下町遺跡の調査は、これまで全国各地で進められてきた調査の蓄積を投影できる恵まれた環境にもあると言えます。



さて、城下町遺跡検討会に前後し、松尾先生による出土遺物指導会を島根町の財団事務所で行いましたが、この中で、松尾先生から出土遺物の編年案の作成と陶磁器専門家による時代・産地特定と評価に関する提案がなされました。遺構の年代判定のための編年表の作成は、検討会の目的でもある「今後の調査・研究水準を向上させ、併せて発掘調査の有効性と効率性を高めていく」ためにも焦眉の急であります。同時に、松尾先生も大変驚かれた出土遺物に、火災によりまとめて廃棄されたと考えられる裁判所出土の17世紀後半の中国製白磁群があり、その出土量と保存のよさは全国的に見ても稀有な事例とのことでした。全国的視点に立った遺物の評価は、松江城下町遺跡の重要性と遺跡調査の必要性を市民の皆さんに伝える良い機会となるでしょう。

* 出土遺物の編年案作成と、陶磁器専門家による時代・産地特定と評価は『松江市史』『松江城』編集の上でも避けて通れない課題ですので、発掘調査関係者と協力しながら進めていくこととなります。

(平成25年7月 日 松江市文化財史料編纂室長 稲田 信)